論文

各国特許庁ホームページを解析する －米国特許商標庁ホームページ(2)

武藤 晃^{*1}, 湯川奈穂美^{*1}

[著者抄録] 「インターネット」という新しい時代のツールは、発展するスピードの速さのため脅威であると言える。他面、うまく使いこなすことができればこれほど強力で効果的なツールは他にない。しかも、ほとんどのウェブ・サイトは無料で開放されていて、多くの人に平等なツールである。米国における特許情報の管理体制も、また発展するスピードの速さのため脅威である。特許情報の効果的利用のため、技術の動きに敏感にシステムを変えていき、常に時代に柔軟に対応するからだ。5年ごとの見直しを行ってきた国際特許分類と違い、米国特許分類は毎月のように変更する。少し離れていると事情が変わってしまい、それに気が付かないままアクセスすると痛い目に遭う。反面、事情を理解すれば米国特許情報をうまく使いこなすことができる。柔軟な体制をバックアップするため、実に巧妙に情報処理システムが構築され、また多くのサーチツールが用意されている。今回は、特許情報を検索する人たちに有益なサーチツールの概要と使い方を解説し、次いで米国特許情報データベースおよび商標データベースの概要と検索方法を解説する。

[著者付与キーワード] USPTO, インターネット, 特許分類, サーチツール, 全文検索, 書誌的事項検索, 特許データベース, 商標データベース

Article

Analyzing homepages of patent offices －U.S.PTO (2)

MUTO Akira, YUKAWA Naomi

[Author Abstract] "Internet" expanding so fast as a tool of new age that people may feel threatened, however, no other tools can be powerful and effective as the Internet. In addition, most of web sites open for free, giving equal opportunity to many people. Controlling patent information in the U.S. is also threatening for its speed of growing. Systems are changing frequently according to technology for the effective use of information. Different from International Patent Classification that had been reviewed every 5 years, the U.S. patent classification changes frequently. Away from its situation, the circumstance might be totally different, which damages time-and-cost efficiency. The U.S. PTO provides some information process system and search tools to back up such flexible systems. In this essay, patent database search and its search tools will be explained, especially for the searchers of the U.S. patent information.

[Keywords by Author] USPTO, the Internet, patent classifications, search tool, full-text search, bibliographic search, patent database, trademark database

^{*1} (株)ニッポンテクニカルサービス (〒102-0083 東京都千代田区麹町4-3 麹町4丁目ビル)
Tel. 03(3265)1955 E-mail: muto@ntspat.co.jp
Nippon Technical Service CO.,LTD.
(3, Kohjimachi 4-chome, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0083)

1. はじめに

インターネットへの依存度は、ビジネス社会全体を通して急速に高まっている。特許情報の世界においては、紙から電子媒体へ、電子媒体からインターネットウェブへと一足先に転換が進み、ウェブサイトへのアクセスなしに必要な特許情報を得るのは、もはや非合理的かつ非効率的である。

権利情報として、また技術情報として米国特許情報へのアクセスが重要であることは明らかである。U.S.PTOのホームページ (<http://www.uspto.gov>) には、1976年1月1日以降に発行された米国特許公報が公開されている。また、データベース検索をサポートするため、多くのサーチツールが用意されている。

今年、米国特許商標庁はホームページ上において商標調査の可能なサイトを開放した。商標データベースである。

今回は特許情報を検索する人たちに有益なサーチツールの概要と使い方を解説し、次いで米国特許情報データベースおよび商標データベースの概要と検索方法を解説する。

2. 米国特許情報へのアクセス

米国特許情報へアクセスする方法は大きく分けて三つある。特許番号や特許権者の名前などの書誌事項、米国特許分類または国際特許分類の分類システム、それと特許明細書のキーワードである。最初の二つは属性検索と呼ばれ、残りの一つは全文または抄録のテキスト検索である。書誌事項とキーワードはどこの国でも大差ないが、分類システムは特色がある。

日本には国際特許分類に加えFI記号とFタームとがあり、旧日本特許分類も残っているが、米国には上記二つ以外にない。この場合、国際特許分類は世界共通であるものの、使い方は文化の違いほどある。同じ発明に対して日本と米国ではまったく異なる国際特許分類が付与されることは、特許に精通した人には周知である。このため、多く

の日本人は「米国特許に付けられた国際特許分類は当てにならない」と言うが、実は文化の違いなのである。米国人からみれば妥当な国際特許分類なのである。しかしながら、米国特許に付与されている米国特許分類の数に対して国際特許分類の数が少なく、それも補助的に扱われているため、専門家は主に米国特許分類を相手にしている。

米国特許分類は事実上唯一の分類システムであるが、5年ごとの見直しを行ってきた国際特許分類と違い、米国特許分類は毎月のように変更する。特許情報の効果的利用のため、技術の動きに敏感にシステムを変えていき、常に時代に柔軟に対応するからだ。少し離れていると事情が変わってしまうため、一部の専門家でないかぎり常に精通していることは難しい。しかし、この問題を解決するため、米国特許分類の必要なときは普通の人でも容易に馴染めるようにガイダンスがある。

3. ガイダンス

サイト“Classification Operations”（分類操作）には、一般人向けの「米国分類システムをどのように使うか」というページと、審査官向けの「米国分類システムの審査官ハンドブック」というページとが掲載されている。一般人向けには、次の解説がある。

- How the System is Organized（システムはどのように構成されているか）
- Bases of Classification（分類のベース）
- Classification Schedules（分類の目録）
- How to Read Subclass Titles and Definitions（サブクラスのタイトルと定義の読み方）
- How Subclasses are Arranged（サブクラスはどのように配置されているか）
- How Classifications are Assigned to Patents（分類はどのように割り当てられるか）
- Alpha Subclasses, Digests, and Cross-Reference Art Collections（アルファ・サブクラス、ダイジェストおよびクロス・リファレンス・アート・コレクション）

- Search Tools "Index to the USPCS, Manual of Classification, Class.Definitions, Class.Orders" (サーチツール)
- Suggestions for Search (サーチのための提案)
また、審査官向けには次の解説がある。
- Introduction (はじめに)
- Organization of Information (情報の仕組み)
- Aids to Searching or Placement (検索または配置の補佐)
- Patent Analysis for Placement into System (Claimed Disclosure) (システムへの配置のための特許分析)
- Determination of a Class for Original Classification or Assignment for Examination (オリジナル分類のクラスの決定、または審査の割当て)
- Selection of Locus for Searching or Placement (検索または配置の場所の選択)
- Originals vs. Cross-References (オリジナルとクロス・リファレンスの対比)
- Classification of Design Patents (意匠特許の分類)
- Reclassification in Classes 518-585 (クラス518から585の再分類)
- Structure of the Modern Schedule (最近の目録の構成)
- Index (索引)

4. サーチツール

上記ガイダンスによれば、米国特許分類システムの特定の技術分野もしくは学術分野に属している特許を探し当てるには、調べる人の良い判断力に加え、次の刊行物を継続的かつ相互参照して使用する必要があると述べている。

- 米国特許分類システム索引 (Index to the U.S. Patent Classification System)
 - 分類マニュアル (Manual of Classification)
 - 特許分類定義 (Patent Classification Definitions)
 - 分類オーダー (Classification Orders)
- 一般に「サーチツール」と呼ばれるのはこの四

つである。ただし、審査官用には次のシステムが加わる。

- Automated Patent Systems (自動特許システム)

なお、次の資料も参考にできる。

- 米国特許分類とIPC分類との対照表 (Concordance, U.S. Patent Classification (U.S.PC) to International Patent Classification (IPC) Seventh Edition)

これらのサーチツールへアクセスするには次の要領である。

- (1) U.S.PTOのトップページ (HOME) の左側のボックス (図1) 内にあるPatents (特許) をクリックする。
- (2) Patents (特許) ページの右側のReferences (参照) をみると、次のページのリンクがある。
- Classification Index (分類インデックス)
- Manual of Classification (分類マニュアル)
- Classification Definition (分類の定義)
- Examiner Handbook to the U.S. Patent Classification System (審査官用米国特許分類システムハンドブック)
- Concordance, U.S. Patent Classification (U.S.PC) to International Patent Classification (IPC) Seventh Edition (米国特許分類とIPC分類との対照表)
- (3) 所望のサーチツールをリンクする。次回からはブックマークするとよい。

なお、サーチツールではないが関連する情報として、Patents (特許) ページのMainly for Practitioners (実務家向け) コーナーには、次の情報がリンクされている。

- Manual of Patent Examining Procedure (特許審査基準)
- Patent Laws on GSA FedLaw site (米国特許法一連邦法サイトへのリンク)
- Patent Rules, Title 37 CFR (1MB) or zip file (227KB) (特許法施行規則)

図1 USPTOホームページの階層図
(「特許」を中心として)

4.1. 米国特許分類システム索引

技術、プロセス、機械、製造物、物質の組成、その他諸々を表す技術用語および一般用語のアルファベット順リストならびに該当の特許もしくは文献（従来技術）を見出すことができる類別のリストである。調査ツールとしては、このインデックスは分類システムを使いこなしていない人あるいは調査中の特定技術に不案内な人のための分類システムへの手引きとして有用である。

Classification Index（分類インデックス）をクリックすると、アルファベットAから順に技術用語がインデックスになっていて、その技術用語の前にクラス／サブクラスが表示されている。なお、サブクラス番号末尾のプラス記号（+）は、下位にインデントされるすべてのサブクラスを含むの意味である。

例：D25/29 A FRAME STRUCTURE
434/203+ ABACUS

A以外のイニシャルの技術用語を探すときは、アルファベットAからZまでのリンクをクリックすればよい。

4.2. 分類マニュアル¹⁾

クラス目録のコレクション、クラス番号順およびアルファベット順のクラス標題のリスト、審査グループによるクラスのリスト、および諸クラスの大きなグループへの理論的な編成が収められている。マニュアルにあるクラス標題およびサブク

ラス標題は対象の主題を強く暗示するが、これのみを使って主題を画定すべきではない。むしろ、このマニュアルは必ずクラスもしくはサブクラス定義とそれに関連するサーチ・ノートと共に使用するべきである。

Manual of Classification（分類マニュアル）をクリックすると、開かれたページにはクラスを表す3桁のアラビア数字が羅列されており、調べたいクラスをクリックするとそのクラスに属するサブクラスが表示される。この表示画面から分類定義のページにジャンプすることができる。

米国特許分類システムは国際特許分類とはまったく異なる体系からできているが、基本的には大きな概念のクラスとこのクラスの明細を特定するサブクラスとから構成され、たとえば、次のように表示される。

395/101

クラスは、現在では通常特許のクラス2から987まで（欠番あり）と、意匠特許のD1からD99まで（欠番あり）と、植物特許のPLTとがある。

各サブクラスは、その下位にインデントされたサブクラスを限定する階層構造になっている。クラスの中には、必要に応じてサブクラスとは異なる概念として次の分類記号が含まれる。

(1) アルファ・サブクラス（非公式サブクラス）

公式サブクラスの数字の右に付いているAからZまでのアルファベットはアルファ・サブクラスを表し、審査官の特許コレクションを示す。この付加は非公式なものである。

例：273/120A

(2) ダイジェスト (DIGESTS)

公式サブクラスの前の“DIG”はダイジェストを表し、そのクラスの概念にはあてはまるが特定のサブクラスには関連しないものを示す。審査官が便宜上蓄積してきた分類であって、たとえば、123/DIG12のように“DIG”の符号と数字との組み合わせで表示される。

(3) クロス・リファレンス・アート・コレクション (CROSS-REFERENCE ART COLLECTIONS)

副分類専用で定義が与えられているダイジェストを示す。インデックス内ではアスタリスク(*)で表される。

(4) フォーリン・アート・コレクション (FOREIGN ART COLLECTIONS)

公式サブクラスの前の“FOR”は、フォーリン・アート・コレクションを表し、外国特許と非特許文献とを対象にするものを示している。

例：706/FOR104

4.3. 特許分類定義

正式のクラス、サブクラス、およびクロス・リファレンス・アート・コレクションズがおのの包含する範囲の記述により構成される（植物クラスと意匠を除く）。サーチャーに他のクラスおよびサブクラスの関連する主題を指示するサーチ・ノートも含まれている。サーチ・ノートはクラスもしくはサブクラスの境界を画定し説明する際に助けになる。

特許分類定義 (Patent Classification Definitions) をクリックすると、分類のマニュアルと同じくクラスを表す3桁のアラビア数字が羅列されている。調べたいクラスをクリックすると、次の膨大な情報が掲載されている。

- クラスの定義
- 一般的事項
- 他のクラスの参照（注：他のクラスに含まれる関連する技術事項）
- 各サブクラスの定義

4.4. 分類オーダー

頻繁に分類変更を繰り返す米国特許分類システムの象徴的なサーチツールであるが、この情報は、現在のところ、U.S.PTOのホームページのどこにも見当たらない。年間を通して発行され、再分類プロジェクトの結果として創設もしくは廃止される米国特許類別に関する情報が収められる。このオーダーはプロジェクトの発行時（変更の公式の実施時）と正規の調査ツールの更新時との間のギャップをつないで新しい情報を含めるために使

用される。平均すると、月に2回ほど紙によって発行されている。詳細は、NTSホームページ (<http://www.ntsapat.co.jp>) の「特許分類システムの解説（アメリカ）」を参照されたい。

5. サーチのための助言

一般人向けの「米国分類システムをどのように使うか」というページをみると、サーチのための助言として次の記載がある。米国における特許調査の一般的な対応の仕方を知るうえで参考になる。

インデックスを使用しても制限された調査分野が分からない場合には、以下のヒントによって調査分野を画定されたい。

- (1) 調査する技術もしくは機器の本質的機能もしくは効用は何かを見定める。
- (2) 本マニュアルの始めにある Classes Within the U.S. Classification System Arranged by Related Subjects（特許分類クラスの関連主題による配列）および Classes Arranged in Alphabetical Order（クラスのアルファベット順配列）の標題を精査する。
- (3) 調査する発明考案を含むと思われる標題に特に注意する。
- (4) そのクラスの定義と関連する注釈を注意深く点検する。
- (5) クラスの定義からして選んだクラスが適切ならば、そのクラスのサブクラス目録を精査する。メインライン・サブクラスの標題を再検討する。
- (6) 発明考案の特長を含む初出のメインライン・サブクラス（大文字表記）を選択し、そのサブクラスの定義を検討する。
- (7) メインライン・サブクラスの下位の同位（同レベル）のインデントされたサブクラスを精査し、発明考案の追加の特長を含む初出の標題を選択する。
- (8) 問題の発明考案を包含する最も具体的なインデントされたサブクラスが見つかるまで以上の手順を繰り返し、そのサブクラスのドキュメントを検討する。

サブクラスに該当のものがいない場合には、その上位のサブクラスを調べ、対象のサブクラスおよびその上位のサブクラスの定義の中の“Search Class”および“Search This Class, Subclass”注記を点検する。対象のサブクラスのいずれかのクロス・リファレンスが問題の発明考案に密接に関連している場合には、そのクロス・リファレンスのoriginal類別の定義と注記をも点検するべきである。

それでも該当の技術が見つからない場合は、手順(2)の中の他のクラスを調べる。該当の技術が見つからないのは、分類システムの的確な箇所が見つかっていないためである場合が通常である。クラスの新設や既存の分類の管理担当の係官が調査分野を画定する際の相談に常時応じている。

6. 特許データベース

U.S.PTOの特許情報は、全文データベース(Full-Text Database)と書誌的事項データベース(Bibliographic Database)との2種類のデータベースに収録されている。二つの大きな違いは、検索対象が公報全文かフロントページかであるが、それに加え全文データベースでは発行時の特許分類(Issued U.S. Classification)をベースとしているのに対し、書誌的事項データベースでは現行の特許分類(Current U.S. Classification)に対応していることである。

これらのデータベースにアクセスするには、U.S.PTO (<http://www.uspto.gov>) のトップページ左側のボックス内のSearchable Databaseをクリックし、次のいずれかを選択することである。Patents (特許) ページのSearchable Databaseをクリックしても同じである。

- Patent Full-Text Database with Full-Page Images
- Patent Bibliographic Database and Abstract Database

どちらを選んでも図2のようなWelcome to the USPTO Web Patent Databasesのページにたどりつくので、次回からはブックマークしておくといよい。

これらのデータベースは、1976年1月1日以降直近の毎週火曜日までのデータを収録してある。補正・再審査情報はデータベースには含まれないが、全文検索の該当する特許の最後にリンクが張っている。データベースの状態やサーバのメンテナンス期間などの状況は、データベース・ロード状態(Database Load StatusまたはStatus)で確認することができる。

いずれのデータベースにおいても検索には次の注意点がある。

- 複合語の場合は、“ ” で囲むと、1語として扱われる(Phrase Searching)。
- 全文検索では(\$) を、フロントページ検索では(*) を語の右側につけて、前方一致あいまい検索をすることができる(Right Truncation)。
例：全文検索において“tele \$ ”で検索するとtelevisionやtelephoneなどがヒットする。
- ある期間内に発行された特許を検索したい場合、日付の入力は、間に“→”を入力する(Date Range Search)。
例：1997年11月1日から1998年5月12日までを出力したい場合
11/1/1997 → 5/12/1998
- 要約やクレームなどに含まれる単語から検索する場合の検索語入力の際、ストップワードとされる語(theやcomprisingやsaidなど明細書において頻繁に使用される語)では検索できない。

6.1. 全文検索

Full-Text Databaseを使用する検索(以下、全文検索という。)には、以下の3種類の検索方法がある。

- (1) Boolean Search (発明のキーワードや分野からの簡易検索)
- (2) Manual Search (自分で入力して検索)

Welcome to the USPTO Web Patent Databases

*Before you call or email us about either database, please **make sure** you have checked that database's Status and Help pages, as well as read the important notices here and at the bottom of this page.*

Database Load Status

Full-Text Database

How to access full-page images!

- [Boolean Search](#)
- [Manual Search](#)
- [Patent Number Search](#)
[List of withdrawn patent numbers](#)
- [Database Contents](#)
- [Help](#)
- [Status](#)

Bibliographic Database

Front-page information for rapid searching.

- [Boolean Search](#)
- [Advanced Search](#)
- [Patent Number Search](#)
[List of withdrawn patent numbers](#)
- [Database Contents](#)
- [Help](#)
- [Status](#)

図2 USPTO特許データベースのメニュー・ページ

(3) Patent Number Search (特許番号から検索)

それぞれヘルプページとFAQとのページとが用意されている。各特許の全文表示画面からのハイパーリンクで、イメージ表示画面でオリジナル図面などを表示させることもできるが、今のところ限られたブラウザとイメージ・ビューアソフトでのみ可能である。

取り下げられた特許番号のリスト (List of Withdrawn Patent Numbers) へのリンクと特許の発行年ごとの番号と種別リストを見ることができるデータベース目次 (Database Contents) へのリンクとがある。各検索方法を説明する。

(1) 発明のキーワードや分野からの簡易検索 (Boolean Search)

Boolean Searchを選択すると、検索画面が開

く (図3)。

操作は簡単であり、初めての人でも容易に検索を行うことができる。次の操作である。

- ①Term1のみ、またはTerm1と2にキーワードを入れる。
- ②Term1とTerm2との間のボックスのドロップ・ダウンメニューのAND, ORおよびANDNOTから演算子を選択する (Term1しか入力しない場合は不要)。
- ③Field1のみ、またはField1と2に対してドロップ・ダウンメニューにあるフィールドを選択して入れる (表1)。
- ④ドロップ・ダウンメニューから1976年以降の検索したい年数を選択する。
- ⑤検索 (Search) ボタンを押す。

US PATENT & TRADEMARK OFFICE
PATENT FULL TEXT AND IMAGE DATABASE

Help Home Boolean Manual Number Order Copy PTDLS

Shopping Cart

Data current through 06/20/2000

Query [\[Help\]](#)

Term 1: in Field 1:

Term 2: in Field 2:

Select years [\[Help\]](#)

図3 : Full-Text Database (Boolean Search) の検索画面

表1

Any Field すべてのフィールド	Inventor Name 発明者
Title タイトル	Inventor City 発明者都市
Abstract 要約	Inventor State 発明者州
Issue Date 発行日	Inventor Country 発明者国名
Patent Number 特許番号	Government Interest 政府の関心
App. Number 出願番号	Attorney or Agent 代理人またはエージェント
App. Type 出願タイプ	PCT Information PCT情報
Assignee Name 譲渡人氏名	Foreign Priority 外国優先権
Assignee City 譲渡人の都市	Reissue Data 再発行データ
Assignee State 譲渡人の州	Related U.S.App Data 関連出願データ
Assignee Country 譲渡人の国名	U.S.References 米国引用文献
Int. Class 国際分類	Foreign References 外国引用文献
Issued U.S.Class 発行時米国分類	Other References 他の引用文献
Primary Examiner 主審査官	Claim(s) クレーム
Assistant Examiner 副審査官	Specification 明細書

(2) 自分で入力して検索 (Manual Search)

Manual Searchを選択すると、QueryとSelect Yearsとの入力ボックスのある検索画面が開く。この検索方法はより複雑な検索に向いている。フィールドコードとキーワードとの組み合わせを入力する必要がある。

例：発明の表題に含まれる語を入力して検索する場合、(solderという語が含まれる表題を検索したい場合) TTL/solderと入れる。TTLを入れないと全文中から“solder”という語を検索し、ヒット数が多くなってしまう、望んだ結果が得られない。

フィールドコードとフィールド名は表2のとおりである。

(3) 特許番号から検索 (Patent Number Search)

簡易検索や手入力検索でも特許番号から検索することができるが、特許番号が分かっている場合この番号検索が最も簡単な方法である。Queryボックスに検索したい特許番号を入力するだけである。複数の特許番号の場合はカンマなどで区切る必要はなくスペースを開ける。

(4) 取り下げられた特許番号のリスト (List of Withdrawn Patent Numbers)

取り下げられた特許番号が羅列してある。2か月ごとにアップデートされる。

6.2. フロントページ検索

Patent Bibliographic Databaseを使用する検索（以下、フロントページ検索という。）には、以下の3種類の検索方法がある。

- (1) Boolean Search（発明のキーワードや分野からの簡易検索）
- (2) Advanced Search（式を入力して検索）
- (3) Patent Number Search（特許番号から検索）
このほか、取り下げられた特許番号のリスト (List of Withdrawn Patent Numbers) がある。
上記全文検索の場合と同じく、データベース目

次 (DatabaseContents) では特許の発行年ごとの番号と種別リストを見ることができる。そして、データベースの状態やサーバのメンテナンス期間などの状況はデータベース・ロード状態 (DatabaseLoadStatusまたはStatus) で確認することができる。

検索の結果はフロントページを表示できるが、画面の上部のFull-Textのアイコンをクリックすると全文も表示させることができる。

検索方法は、全文検索の場合とほとんど同じであるから、繰り返し説明しないが、異なる点は、たとえば、フロントページ検索の場合は、検索フィールドにはクレームや明細書がないことや、現行特許分類に対応していることである。

7. 商標データベース検索

特許情報だけでなく、商標情報も同様に開放されている。情報管理の変化のスピードも特許と同様である。U.S.PTOでは近頃、商標電子検索システム (TESS) を新しく導入した。将来的には現在の商標データベースをすべてTESSに換える予定であるが、当分は二つを併用させていくとサイト内に説明があった。ここでは従来の商標データベース検索について説明する。

商標のデータベースには、登録済みの商標と出願中の商標とを含んでいる。登録済みの商標のデータは、直近の公報で出版されたものまで蓄積されている。出願中の商標は通常、出願後3か月を過ぎてから蓄積される。商標のデータベース検索には次の4種類がある。

- (1) 結合マーク検索 (Combined Mark Search)
- (2) 番号検索 (Number Search)
- (3) 簡易検索 (Boolean Search)
- (4) 入力検索 (Manual Search)

データベースの状態やサーバのメンテナンス期間などの状況は、データベース状態 (Database Status) で確認することができる。各検索方法は次のとおりである。

表2

PN	Patent Number	特許番号
ISD	Issue Date	発行日
TTL	Title	発明の表題
ABST	Abstract	要約
ACLM	Claim(s)	クレーム
SPEC	Description/Specification	詳細／明細書
CLAS	Issued US Classification	発行済み米国分類
ICL	International Classification	国際分類
APN	Application Serial Number	出願番号
APD	Application Date	出願日
PARN	Patent Case Information	特許ケース番号
RLAP	Related U.S.App.Data	関連米国出願
REIS	Reissue Data	再発行データ
PRIR	Foreign Priority	外国優先権
PCT	PCT Information	PCT 情報
APT	Application Type	出願タイプ
IN	Inventor Name	発明人名
IC	Inventor City	発明人の都市名
IS	Inventor State	発明人の州名
ICN	Inventor Country	発明人の国名
LREP	Attorney or Agent	代理人
AN	Assignee Name	譲渡人氏名
AC	Assignee City	譲渡人都市
AS	Assignee State	譲渡人州
ACN	Assignee Country	譲渡人の国名
EXP	Primary Examiner	主審査官
EXA	Assistant Examiner	副審査官
REF	U.S.References	米国引用文献
FREF	Foreign References	外国引用文献
OREF	Other References	他の引用文献
GOVT	Government Interest	政府の関心

(1) 結合マーク検索 (Combined Mark Search)

① データベースリスト選択 (Select Database) の中から、出願中 (Pending)、登録済 (Registered)、または両方 (Both) いずれかのデータベースを選択する。

② マークに含まれる語句をボックス (Words in the Marks) に入力する。

③ どのような結果にしたいかをドロップダウン・メニューの次の三つから選択する。

- All of these words (入力語が含まれているすべてのものを表示させたい場合)
- Any of these words (少なくとも入力語の一つが含まれているものを表示させたい場合)
- This exact phrase (商標が入力語そのものであるものを表示させたい場合)

(2) 番号検索 (Number Search)

登録済みの商標の登録番号と、出願中の商標のシリアル番号により検索ができる。検索結果は、新しい順にソートされて表示される。

① 登録番号またはシリアル番号を入力する。複数件検索したい場合は、カンマなどで区切る必要はなくスペースを開ける。

② 検索 (Search) ボタンを押す。

(3) 簡易検索 (Boolean Search)

① データベースリスト選択 (Select Database) の中から、出願中 (Pending)、登録済 (Registered)、または両方 (Both) いずれかのデータベースを選択する。

② Term1のボックスにキーワードを入れる。

③ ドロップ・ダウンメニューからフィールド (Field) を選択する (表3)。

④ Term1とTerm2の間の論理演算子からAND, OR, ANDNOTおよびXORを選択する。

⑤ Term2のボックスにキーワードを入れる。

⑥ ③と同様にドロップ・ダウンメニューからフィールド (Field) を選択する。

⑦ 検索ボタンを押す。

表3

《フィールド》

Combined Marks 結合マーク	Mark Drawing Code マーク図面コード
Word Mark ワード・マーク	Disclaimer Renewals 権利放棄更新
Pseudo Mark 疑似マーク	Register 登録日
Translation トランスレーション	Sec.44 Indicator 44項指示
Design Search Code 意匠検索コード	Priority Date 優先日
Owner Name 所有者氏名	Other Reg. Info 他の登録情報
Owner Address 所有者住所	Sec.2(f)Limitation 2項(f)規制
Serial Number シリアル番号	Publish for Oppos 対応物公表
Registration Number 登録番号	Affidavits 宣誓供述書
Filing Date 出願日	Change in Reg 変更
Registration Date 登録日	Type of Mark マークタイプ
Int. Class 国際分類	Amended Sup. Reg. 補正
Goods & Services 商品・サービス	Attorney of Record 代理人の記録
Description of Mark マークの記述	Other Data 他のデータ
Sec.1(b)Indicator 1項(b)指示	Any Field すべてのフィールド

(4) 入力検索 (Manual Search)

- ① データベースリスト選択 (Select Database)
の中から, 出願中 (Pending), 登録済 (Registered), または両方 (Both) いずれかのデータベースを選択する。
- ② (Query) に「フィールドコード/検索語」
(例: MS/Cola) を入力して, 必要な場合AND, ORおよびANDNOTでつなげる。
- ③ 検索 (Search) ボタンを押す。

U.S.PTOのホームページを解析し, 初めてインターネットにトライする人でも米国の特許や商標

をアクセスできるように解説しようと試みた。アクセスの容易化は, 確かに普通の人でも情報を手に入れることができるように見える。しかし, 情報量の拡大, 分類システムの複雑さ, 高度なニーズという環境において漏れ (エラー) の許されない特許情報の特異性を考えると, 他方ではアクセスが一層困難になり, 特許情報の管理は一般化と専門化の2極化に向かっている。これから時代は, 自ら探し出す情報ニーズと外部の専門家にアウトソーシングする情報ニーズとをしっかりと区別することが必要になる。

～～～ 参 考 文 献 ～～～

- 1) 特許分類システムの解説
(<http://www.ntspat.co.jp>)